

科目名	宗教学の人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択必修	
担当教員	福島 寛太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。☒ 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準：HL2101			
達成目標	「到達目標」☒ ・宗教学的”ものの見方”を理解する。☒ ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。☒ ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。☒ 単位認定の最低基準は:「内容の7割以上を理解していること」☒ DPとの関係: 問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部生活科学科 1 年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60％以上）・授業への理解度8割、合 とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。☒ ・ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。☒	初回に当たり、とくになし	1.5
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間☒主義的宗教がそれである。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
4	神秘主義的宗教と預言者的宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
5	汎神の宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。☒☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	宗教的人間（１）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
14	宗教的人間（２）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。☒ ☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
16	期末試験	期末試験を行う		0

科目名	哲学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択必修	
担当教員	関川 悦雄			
開講期	後期			
授業概要	本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてさらに思想的思索をを深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」（パスカル）とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつ等などを取り上げました。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎にして、さらに人間の尊厳と倫理的課題を追究し、そしてボルノ－の著書を基にして、哲学的人間学の学的内容を解明することを中心に進めて行きます。なお、この講義専用のノートを用意して、それに講義内容を予習・復習の形で記述して貰いますが、それに対するフィードバック（評価）は行います。位置づけ・水準はHL2102です。			
達成目標	1 受講者は人間の尊厳と倫理的課題の8割を理解し、まとめることができること。☒ 2 受講者はボルノ－の考え・思想の下にあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できること。☒ 3 受講者はボルノ－思想に関する講義を聴いて自身の「人間としての生き方やあり方」を述べるることができること。これら三つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」が深められ、「倫理観・社会的責任」が培われることが期待できる。また、単位認定の最低基準は、これらの三つの項目の7割程度理解し、活用できることである。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回、ワーク・シートを活用し、ゼミ形式で発表する方法の中で評価する。評価内容は、事前調べ・自作ノートの作成・発表・討議などで、20点とする。この評価を含めて、学期末でまとめ作成の80点とし、合計で100点とする。	
教科書	ボルノ－著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。この著書は学内の図書館にある。葛生栄二郎他共著『新・いのちの法と倫理』（改訂版、法律文化社、2017年9月を使用するが、この本は当方でコピー物で用意する。			
参考書	特になし			
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。この講義専用のノートを用意すること。			
オフィスタイム	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。関川研究室（図書館3階）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用と自作ノートの作成、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。	予習・復習；自作ノートの作への整理・記述	40
2	人間の尊厳と人権尊重・福祉理念	人間としての尊厳の考え方とその習得、人権思想・福祉理念の歴史の変遷とその意義、人権尊重・権利擁護の考え方とその習得。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
3	自立の概念	人間にとっての自立の意味、人間尊重の主体的保持、介護を要する人における自己決定の考え方とその理解。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
4	ボルノーの人物とその哲学	ボルノーという人物の紹介、教育学における人間学的見方。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
5	ディルタイの生の哲学と教育学	ディルタイの生涯と思想、ディルタイの哲学・教育学と思想的位置づけ。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
6	ボルノーの実存哲学と教育学	序論―出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
7	ボルノーにおける非連続的事象（1）	危機（1）―身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
8	ボルノーにおける非連続的事象（2）	危機（2）―道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
9	ボルノーにおける非連続的事象（3）	覚醒―教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学側面。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
10	ボルノーにおける非連続的事象（4）	助言―生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
11	ボルノーにおける非連続的事象（5）	出会い（1）―出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相違、出会いの実存的概念）。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
12	ボルノーにおける非連続的事象（6）	出会い（2）―出会いの実存的概念、出会い概念の拡張と精神科学的概念。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
13	ボルノーにおける非連続的事象（7）	出会い（3）―教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
14	ボルノーにおける非連続的事象（8）	教育における冒険と挫折―教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	授業のまとめ	倫理やボルノー思想の学習を通してのまとめ。自作ノートに対する評価。	予習・復習；自作ノートのチェック	40

科目名	社会福祉原論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	社会福祉の思想・歴史・諸制度について学ぶ。 課題に対するフィードバック方法：課題を返却し、コメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 DW2151			
達成目標	【達成目標】 社会福祉の考え方や対象について理解できている。 わが国の社会保障の基本的な仕組みが理解できている。 【単位認定の最低基準】 社会福祉の理念・福祉制度の概要の7割が理解できている。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	期末試験 80％☑ 課題 20％☑	
教科書	『社会福祉の原理と政策』最新社会福祉士養成講座、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、中央法規			
参考書	必要に応じて紹介します。			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会の出来事に関心を持ってください。			
オフィスタイム	水曜日の1時限目・金曜日の3限目（創学館4階 No.6研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・社会福祉の原理とは ・地域における福祉課題についてグループワークを行う	自分の住み地域の福祉課題を調べる	30
2	社会福祉の歴史	・社会福祉の歴史を学ぶ視点 ・欧米の社会福祉の歴史的展開 ・日本の社会福祉の歴史的展開	国民皆保険・皆年金が始まる前後で、市民の暮らしがどのように変わったか考える	30
3	社会福祉の思想・哲学・理論（1）	・社会福祉の思想・哲学 ・社会福祉の理論	自分が不自由であると感じていることをリストアップし、その原因についてまとめる	30
4	社会福祉の思想・哲学・理論（2）	・社会福祉の論点 ・社会福祉の対象とニーズ	ニーズ論の重要語句を調べる	30
5	社会問題と社会構造	・現代における社会問題 複雑化する現代の社会問題 貧困・失業・社会的孤立 偏見と差別	差別や偏見、社会的排除を解消するためには、どのような課題があるのかを考え、文章にまとめる	30
6	福祉政策の基本的な視点	・福祉政策とは何か ・福祉政策において重要な概念	テキストの用語解説を読む	50
7	福祉政策におけるニーズと資源	・ニーズ ・資源（リソース）	自分の暮らす地域の社会資源について調べる	60
8	福祉政策の構成要素と過程	・福祉政策の構成要素 ・福祉政策の過程と評価	福祉政策の諸過程を確認する	40
9	福祉政策の動向と課題	・福祉政策と包括的支援の現状と課題	地域共生社会の実現に向けた自分の住む地域の取組を調べる	50
10	福祉政策と関連施策（1）	・保健医療政策 ・教育政策 ・住宅政策	保健医療政策の変遷とその時代背景を調べる	50
11	福祉政策と関連施策（2）	・労働政策 ・災害政策	歴史の中で、大災害といわれるものについて、いつ、どこで発生したのかを調べる	30
12	福祉サービスの供給と利用の過程	・福祉供給過程 ・福祉利用過程	福祉サービスの供給主体としてのボランティアの強みとは何かをまとめる	30
13	福祉政策の国際比較（1）	・福祉政策の動向：欧米	分からない用語について調べる	30
14	福祉政策の国際比較（2）	・福祉政策の動向：東アジア	日本にも韓国のような就労支援プログラムがあるか調べる	50
15	まとめ	・これからの社会福祉の展望	重要語句の解説を読む	30

科目名	高齢者福祉	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及びニーズの高まりを捉えるとともに、高齢者を支えるサービス等について理解する。☒ 課題に対するフィードバック方法：課題・レポートを返却し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 hw2351			
達成目標	・わが国の高齢化の特徴と諸問題について理解できている。☒ ・高齢者特徴について理解できている。☒ ・高齢者の生活を支えるサービスについて理解できている。☒ 【単位認定の最低基準】 達成目標の7割が理解できている。 【履修カルテ評価項目】☒ ①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。☒ ②高齢者の精神的・身体的・社会的特徴についてどの程度理解できたか。☒ ③高齢者を支えるサービスについてどの程度理解できたか。 【ディプロマポリシーとの関係】 知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	特になし	成績評価 方法	筆記試験60％、課題40％☒	
教科書	毎時間プリントを配布			
参考書	随時紹介する			
学生への要望	高齢者について関心を持って、関連する新聞記事なども目を通してください。☒			
オフィスタイム	金曜日Ⅲ・Ⅳ時限☒創学館No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・年間授業内容の説明☒ ・高齢者観について	・自身の高齢者観についてまとめる	30
2	現代社会と高齢者問題（1）	・少子高齢社会 ・人口の高齢化といくつかの側面	・最新の高齢化率の変遷、平均寿命、人口の高齢化により起きていることを調べる	30
3	現代社会と高齢者問題（2）	・高齢者をとりまく状況と諸問題☒ 高齢期の生活不安、健康についての意識 家族構造と機能の変化 ・高齢者の介護 要介護高齢者の状況、家族介護者の現状と課題	・配布資料を復習する	30
4	現代社会と高齢者問題（3）	・高齢者の経済状況 年金制度と就労	・日本の年金制度の特徴を調べる	30
5	高齢者福祉の変遷	・高齢者福祉が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ☒	・配布資料を復習する	30
6	高齢者のからだの動き	・加齢による機能低下 ☒ ・高齢者の身体機能の低下を助ける福祉機器の紹介	・配布資料を復習する ・福祉機器について調べる	30
7	高齢者の食生活	・食生活をめぐる問題 ・口腔ケアの必要性	・高齢者の食生活の問題点を調べる	30
8	高齢者福祉に関する法律（1）	・老人福祉法☒ ・介護保険法☒ 居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスの具体的な内容について学ぶ	・自分の住む地域の地域密着型サービスを調べる	30
9	高齢者福祉に関する法律（2）	・高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法について学ぶ	・配布資料を復習する	30
10	認知症高齢者の理解と対応	・認知症高齢者の現状☒ ・認知症高齢者への対応の仕方 ☒ ・地域で支える取組み☒ ・認知症カフェへの参加	・自身の生活する地域で行われている認知症施策を調べる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	高齢者の意識	・ 高齢者がどのような意識を持って生活をしている☒ のかについて理解する。☒ ・ DVD「センテナリアン」の視聴	・ 百寿者の特徴を調べる	30
12	高齢者の社会参加	・ 高齢者の社会活動状況および学習活動への参加状況☒ ・ 住み慣れた地域で生活するための人や地域との つながりについて学ぶ	・ ビデオ視聴の感想をまとめる	30
13	各国の高齢化の状況と福祉サービス（１）	・ 欧米先進諸国、東南アジア等の高齢化の状況と関連する サービスについて調べる	・ 割り当てとなった国の高齢者福祉サービスを調べる。	90
14	各国の高齢化の状況と福祉サービス（２）	・ 割り当てとなった国の高齢化の状況と高齢者福祉サービス について発表する	・ 他の発表を聴き、自分が調べた国との違いを比較し、まとめる	60
15	高齢者の生活を護る法制度	・ 高齢者の人権と成年後見制度	・ 配布資料を復習する	30

科目名	障害者福祉	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☑ 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。		
受講資格	生活科学科社会福祉専攻	成績評価 方法	出席状況・学習態度（５０）、定期試験等（５０）総合的に評価する
教科書	特に指定しない		
参考書	障害者福祉論（ミネルヴァ書房）☑ 新・現代障害者福祉論（法律文化社）		
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室☑ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション・障害とは	法律にみる障害の定義、ＩＣＦによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことか考える。		0
2	障害者福祉の基本的視点	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。		0
3	障害者福祉のあゆみ	戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学ぶ。		0
4	障害者福祉に関する制度や法律	障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。		0
5	障害者の生活実態とニーズ	障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。		0
6	障害者総合支援法の概要	総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。		0
7	障害福祉サービスの利用プロセス	福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。☑ ☑		0
8	相談支援	総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。		0
9	就労支援	就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。		0
10	成年後見制度と 権利擁護	障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障害者プランにおける専門職の役割	市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。☑ ☑		0
12	障害者の文化スポーツ	障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。		0
13	障害者支援のニーズと対応	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。		0
14	事例研究	個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。☑ ☑		0
15	まとめ	障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。		0

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	1. 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法等について 2. ソーシャルワークの概念やその基盤となる考え方について 3. 専門職倫理の概念について☒ レポート等は、最後の授業で全体にフィードバックします 発表や意見交換を通して双方向型の従業を行います ☒ 本科目の担当教員は熊田伸子と近内直美で、下記の通りの分担となる☒ ☒内が地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割、援助技術の必要性について授業を行う☒ 実務経歴：社会福祉士として、地域包括支援センター、総合病院に勤務 位置づけ・水準 DW2164		
達成目標	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する 単位認定の最低基準は：内容の8割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、論理的・社会的責任		
受講資格	人間生活学科 福祉コース 1年	成績評価 方法	演習及び発表 30%、課題 70%
教科書	最新社会福祉士養成講座精神福祉士養成講座 11ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門] 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしよう。		
オフィスタイム	熊田：木曜日Ⅰ・Ⅱ時限 近内：水曜日Ⅰ・Ⅱ時限 創学館4F、No.6 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ1 近内	・オリエンテーション ・ソーシャルワークとは ・ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士	・対人援助に必要なとなる援助技術について知る ・社会福祉士の役割について理解する	30
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ2 近内	・社会福祉士および介護福祉士法 ・精神保健福祉士法	・各専門職の制度創設の経緯と定義及び義務について理解する	30
3	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ3 近内	・社会福祉士および精神保健福祉士の専門性	・各専門職の専門性について理解する	30
4	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ4 近内	・社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー	・コンピテンシーについて理解する	30
5	ソーシャルワークの概念1 近内	・ソーシャルワークの定義	・ソーシャルワークの定義について理解する	30
6	ソーシャルワークの概念2 近内	・ソーシャルワークの構成要素	・ソーシャルワークを構成する要素とその意味を理解する	30
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方1 近内	・ソーシャルワークの原理	・ソーシャルワークの原理とされている言葉の意味を理解する	30
8	ソーシャルワークの基盤となる考え方2 近内	・ソーシャルワークの理念	・ソーシャルワークの理念とは何かを理解する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ソーシャルワークの形成過程 1 熊田	・ソーシャルワークの源流と基礎確立期	・ソーシャルワーク創設の歴史を理解する	30
10	ソーシャルワークの形成過程 2 熊田	・ソーシャルワークの発展期	・ソーシャルワークの発展について、社会の変化とともに理解する	30
11	ソーシャルワークの形成過程 3 熊田	・ソーシャルワークの展開期と統合化	・ジェネラリスト・ソーシャルワークへの変化について理解する	30
12	ソーシャルワークの形成過程 4 熊田	・日本におけるソーシャルワークの形成過程	・日本における社会事業の歴史を理解する	40
13	ソーシャルワークの倫理 1 熊田	・専門職倫理の概念とソーシャルワーカーの倫理綱領について	・専門職の意義について理解する	30
14	ソーシャルワークの倫理 2 熊田	・社会福祉士および精神保健福祉士の倫理綱領	・倫理綱領から「専門性とは」を理解する	40
15	ソーシャルワークの倫理 3 熊田	・倫理的ジレンマ	・倫理的ジレンマとはどのようなことか調べる	40

科目名	介護福祉概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	前期		
授業概要	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援などに関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☒ 実務経歴：特別養護老人ホームにおいて介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2103☒		
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①介護の意義を理解し、介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉えることができるか。 ② 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できたか。 ③地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。 単位認定の最低基準：介護福祉の意義と倫理について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	筆記試験 70% 課題30%
教科書	中央法規出版☒介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本Ⅰ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を実践する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 II 時限☒ 創学館 4 階 No.1 研究室☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	介護の基本Ⅰの学び方 シラバスの説明 介護福祉士・社会福祉士としての実践 DVD「福祉の現場から」	DVDを参考に、将来像についてまとめる	30
2	介護福祉とは	介護の成り立ち 1) 介護の成り立ち	「介護」に対してのイメージについてまとめる	30
3	介護福祉とは	介護の成り立ち 2) 専門職による「介護」が誕生した社会背景	演習1-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
4	介護福祉とは	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護の概念の変遷 1) 1970年代ー介護サービスの量的拡充	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉とは	1970年代の家庭における介護（認知症高齢者）の実際 『恍惚の人』を鑑賞	『恍惚の人』から家庭における介護について考察する	30
6	介護福祉とは	介護の概念の変遷 2) 1980年代ー介護サービスの質的向上 3) 1990年代ー今日の介護実践における基本的な概念	授業の中で指示されたことをまとめる	60
7	介護福祉とは	介護の概念の変遷 4) 2000年以降ー今日の介護サービスの基本的枠組み p38身体拘束を考える（DVD）	演習1-2に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
8	介護福祉とは	演習1-2について発表、グループディスカッション 介護福祉の基本理念 1) 介護福祉の理念 2) 尊厳を支える介護	演習1-3に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
9	介護福祉とは	演習1-3について発表、グループディスカッション 介護福祉の基本理念 3) 自立を支える介護	演習1-4に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	介護福祉士の役割と機能	演習1-4について発表、グループディスカッション 介護福祉士の活動の場と役割 1) 地域包括ケアシステム 2) 介護予防	授業の中で指示されたことをまとめる	30
11	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割 3) 医療的ケア 4) 人生の最終段階の支援 5) 災害時の支援	演習2-1介護福祉士の活動する場と役割	30
12	介護福祉士の役割と機能	演習2-1について発表 事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】	自立支援とはどのようなことか、ハルさんの事例から具体的にあげてまとめる	30
13	介護福祉士の役割と機能	事例から自立支援を考える【ハルさんの物語】 本人、家族の視点から考える	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法 1) 社会福祉士及び介護福祉士法 2) 社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	演習2-2、演習2-3に取り組み、発表できるようにまとめる	30
15	総括	1. 心身の状況に応じた介護を考える 2. 介護福祉士の義務規定	授業の中で指示されたことをまとめる	60

科目名	介護の基本Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	介護の基本では、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援などに関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☒ 実務経歴：特別養護老人ホームにおいて介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 位置づけ・水準 DW2104☒		
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 ①介護福祉の理念を基に介護福祉士の倫理が必要な理由を理解する。 ② エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援について理解する。 ③自立支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できたか。 単位認定の最低基準：介護福祉の倫理と自立支援について8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	筆記試験 70% 課題30%
教科書	中央法規出版☒介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本Ⅰ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を実践する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に着けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅰ時限 ・木曜日 Ⅱ時限☒ 創学館 4 階 No.1 研究室☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	通所介護の実践	介護実習Ⅰ-1から通所介護からの気づきをまとめる	授業の中で指示されたことをまとめる	30
2	通所介護の実践	介護実習Ⅰ-1から通所介護からの気づきを発表する グループワークにて考察を深める	授業の中で指示されたことをまとめる	30
3	介護福祉士の役割と機能	3. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 4. 介護福祉士を支える団体	授業の中で指示されたことをまとめる	30
4	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 1) 介護実践における倫理 介護施設で虐待（DVD）	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 1) 介護実践における倫理	授業の中で指示されたことをまとめる	30
6	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理 2) 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応	授業の中で指示されたことをまとめる	60
7	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領 1) 日本介護福祉士会倫理綱領	演習3-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
8	自立に向けた介護福祉のあり方	演習3-1について発表、グループディスカッション 自立支援の考え方 1) 自立支援とは 2) 自立支援とエンパワメントの考え方	演習4-1に取り組み意見を発表できるようにまとめる	60
9	自立に向けた介護福祉のあり方	演習4-1について発表、グループディスカッション 自立支援とリハビリテーション 1) リハビリテーションとは 2) リハビリテーションの実際	授業の中で指示されたことをまとめる	60
10	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援とリハビリテーション 3) リハビリテーションを考えるうえでの障害の理解と評価 4) リハビリテーションの自立のとらえ方 5) リハビリテーションの介護福祉士の役割	演習4-3、4-4に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	自立に向けた介護福祉のあり方	演習4-3、4-4について発表、グループディスカッション 自立支援と介護予防 1) 介護予防の概要 2) 介護予防の種類と特徴	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 3) 高齢者の身体特徴と介護予防 4) 介護予防の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
13	自立に向けた介護福祉のあり方	自立支援と介護予防 5) 自立支援と介護予防 6) 介護予防における介護福祉士の役割	演習4-5に取り組み意見を発表できるようにまとめる	30
14	自立に向けた介護福祉のあり方	演習4-5について発表、グループディスカッション	授業の中で指示されたことをまとめる	30
15	介護の基本Ⅰ（まとめ）	介護の基本Ⅰの全体について総括	授業の中で指示されたことをまとめる	60

科目名	コミュニケーション技術A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	宇治 和子			
開講期	後期			
授業概要	介護や福祉の現場で必要とされるより良き人間関係形成のためのコミュニケーションの大切さや、福祉における基本的な個人の尊重の理念を理解し、専門職に求められる実践的技能的の修得を目指します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や心の動きを解説し、実践的なコミュニケーション技術を指導をします。☒ 授業は、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、自発的で活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたことなどを大いに語り合い、理解を深めてください。☒ 課題（レポート等）提出後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☒ 位置づけ・水準：HW2205☒ 担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として、医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	介護職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。☒ ①他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。☒ ②相手の特性や障害の在りようを深く理解し、その特性に合わせた相手にわかりやすいコミュニケーション方法を工夫する姿勢を身に着ける。☒ ③的確な記録・記述・伝達の技術を学び、多職種連携のチーム対応を理解する。☒ 単位認定の最低基準：上記の内容について7割を理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力			
受講資格	人間生活学科☒ 福祉コース2年生	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%）☒ 受講態度、発表内容、レポート（20%）	
教科書	「コミュニケーション技術」中央法規			
参考書	「介護スタッフのための声かけ表現集」凡人社☒ 「介護応対事例集」日総研など			
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。			
オフィスタイム	火曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限、No.2(臨床心理学)研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等について。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	介護現場におけるコミュニケーションの意義と役割	利用者を人として尊重し、より良い人間関係を築くために、介護におけるコミュニケーションの意義と役割を考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
3	コミュニケーションの基本	「かわりを示す5つの基本動作」や敬語の使い方、相手に伝わりやすい表現方法、非言語表現（表情、声、しぐさ、ジェスチャー、沈黙）などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
4	話を聞くテクニック（1）	傾聴とは。共感とは。話しやすい＆安全な聞き手になること、質問法（Open&Closed Quesution）、感情に触れるアプローチ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
5	話を聞くテクニック（2）	肯定的な言い換え、リフレーミング、焦点化、明確化、要約などの言語的テクニックの使い方について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
6	相談・助言・指導の方法	バイステックの原則、利用者の意欲を引き出す技法などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
7	障害をもつ利用者への理解（1）	コミュニケーション障害を引き起こす主な疾患、脳疾患によるコミュニケーション障害、観察・理解・アセスメントの方法などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
8	障害をもつ利用者への理解（2）	失語症、視力・聴力障害、発話・構音障害などについて、障害部位や疾患名、コミュニケーション障害の状態などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション（1）	高次脳機能障害、失語症（運動性失語症・機能性失語症）、発話・構音障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方や支援における工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション（2）	認知症、自閉症、知的障害、精神障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方、支援の際の工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	チーム・コミュニケーション (1)	専門家チーム（多職種連携）、個別援助計画、報告・連絡・相談・会議、ケアカンファレンス、ミーティングなどについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
12	チーム・コミュニケーション (2)	記録の書き方：要約体と説明体の使い分け、フェイスシート・アセスメントシート、客観的事実と主観的事実などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
13	チーム・コミュニケーション (3)	事故報告書、ヒヤリハット報告書、ハインリッヒの法則などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
14	チーム・コミュニケーション (4)	守秘義務とチーム内の情報共有、個人情報保護法、情報公表制度などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
15	まとめと補足	ケース・スタディの掘り下げや、総合問題の練習、補足説明、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

科目名	生活支援技術A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子,茂木 光代		
開講期	前期		
授業概要	生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を具体的に学ぶ。また、身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。基本的な技術を実践するなかで、身体状況に合わせた方法をその都度ディスカッションしながら方法の検討を通して身につける。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、実技試験の結果を個々にフィードバックを行います。☒ <授業担当者>☒ 廣野担当☒ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームの相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護福祉士として介護職員と生活相談員として勤務。☒ 茂木担当☒ 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☒ 実務経歴：福島県立医科大学附属病院において、看護師として看護業務に従事。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①対象者の機能など状態に合わせ能力を活用・発揮し自立支援するための方法が実践できたか☒ ②移動の介護は日常生活を送るうえで基本となる動作を支える介護であることが理解できたか☒ ③身じたくに関する生活習慣と装う楽しみのための知識と技術を理解できたか☒ ☒ 位置づけ・水準 DW2111		
達成目標	「移動」「身じたく」における生活支援技術の根拠と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。☒ ①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」支援技術を修得し実践できる。☒ ②「身じたく」の意義と目的について理解し、基本的な「身じたく」支援技術を修得し実践できる。☒ ③身体機能、こころの状態に合わせたコミュニケーションを活用して支援することができる。☒ 単位認定の最低基準：生活支援の意義と「移動」「身じたく」の技術について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	実技50% 定期試験50%
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み技術については確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。		
オフィスタイム	廣野：創学館 4 階No.1 研究室 ・水曜日 1 時限 ・木曜日 1 時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方 廣野	①授業概要の説明及び留意点☒ ②生活支援の考え方 ③生活文化、ライフヒストリーなど生活様式の違い	学生自身の生活文化、生活の中での自己決定、生きがいについて発表できるようにまとめる	30
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方 廣野	☒「生活支援技術」を学ぶことの意義について ⑤自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援の理解 ⑥生活支援に活かすICF ⑦ボディメカニクスを理解した介助 ☒	一日の日常生活で移動場面、移動回数、移動時間をチェックしまとめる。	30
3	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（体位変換） 廣野	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。 ①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②体位変換を状態（自立度が高い、一部介助が必要、全介助が必要）に合わせた介助方法 ③介護支援ロボットを着用しての介助	体位変換の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
4	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護（安楽な体位） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②安楽な体位と保持 ③褥瘡の予防について ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器（リフターなど）について ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次回の授業での起居動作、姿勢保持についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	移動・移乗の介護の基本（起居動作） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	起居動作、姿勢保持の一連の支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
6	移動・移乗の介護の基本（起居動作） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②起居動作の介助 ③姿勢の保持（ポジショニング） ④介護支援ロボットを着用しての介助	次の授業での車いす操作についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
7	移動・移乗の介護の基本（車いす介助） 廣野	①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③ベッドから車いすへの介助法 ④車いすからベッドへの介助法 ⑤車いす介助法（段差越え、階段の昇降、エレベーター）⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	車いすの支援方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
8	移動・移乗の介護の基本（車いす介助） 廣野	①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③ベッドから車いすへの介助法 ④車いすからベッドへの介助法 ⑤車いす介助法（段差越え、階段の昇降、エレベーター）⑥スライディングボード、リフターなど、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。⑦介護支援ロボットを着用しての介助	次の授業での歩行介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
9	移動・移乗の介護の基本（歩行介助） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	歩行介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
10	移動・移乗の介護の基本（歩行介助） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度の高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③歩行器、四点杖など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。 ④介護支援ロボットを着用しての介助	次の授業でのベッドから車いすへの介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	60
11	移動・移乗の介護の基本（ベッドから車いすへの介助） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	ベッドから車いす介助の一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
12	移動・移乗の介護の基本（ベッドから車いすへの介助） 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②ベッド上にて、起居動作 ③ベッドから車いすへ介助 ④安全にな車いす介助 ⑤介護支援ロボットを着用しての介助	次の授業での感覚機能低下に配慮した介助についてテキストを熟読し、質問・疑問についてまとめる。	30
13	状態に応じた移動の介護 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②感覚機能低下（視覚、聴覚、等）に配慮した移動の介護について学ぶ。☒	感覚機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
14	状態に応じた移動の介護 廣野	①本人への説明・同意、準備、実施・評価 ②運動機能低下（肢体不自由者、等）に配慮した移動の介護について学ぶ。	運動機能低下に配慮した一連の介助方法について、説明、動作を確認して実行できるように練習する。	30
15	移動の介護（まとめ） 廣野	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30
16	移動の介護（まとめ） 廣野	移動の支援技術に関する実技試験と解説。移動の介護について授業の補足	一連の移動の支援技術について、学生自身が指摘されたことを踏まえ十二分に実行できるように練習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①身じたく（整容、口腔ケアを含む）を整えることの意義と目的について学ぶ。 ②ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
18	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。 ②整容の介助「洗顔」	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
19	自立に向けた身じたくの介護 茂木	整容の介助 「整髪・爪の切り・髭剃り」	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
20	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①整容の介助「爪切り・耳の清潔・化粧」 ②口腔ケア DVD『歯周病』	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
21	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①口腔ケアの意義及び目的 ②ICFの視点から見た口腔ケアのアセスメント	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
22	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①口腔ケアの方法、口腔ケア用具の紹介 ②歯ブラシによるケア法、口腔清拭法	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
23	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①義歯の清掃 ②障害に応じた口腔ケア（片麻痺、認知症） ③口腔ケアの介助の実際	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
24	自立に向けた身じたくの介護 茂木	整容に関する練習問題 まとめ	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
25	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①衣類、寝具の管理 ②衣服着用の目的 ③衣類の種類と選択の視点	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
26	自立に向けた身じたくの介護 茂木	①ICFの視点から見た衣服着脱 ②衣類の着脱介助の実際	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
27	自立に向けた身じたくの介護 茂木	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	本日の授業での重要なところをまとめ覚える。また、実技内容については練習を重ね実行できるようにする。	30
28	自立に向けた身じたくの介護 茂木	衣類の着脱介助の実際（和式、前あき、かぶり）	次回の授業内容について、テキストを熟読し質問・疑問についてまとめる	30
29	自立に向けた身じたくの介護 茂木	実技テストに向けた練習	実技テストで指摘されたことを踏まえて、復習する。	30
30	自立に向けた身じたくの介護 茂木	実技テスト（個別にフィードバック） 身じたくについて復習（練習問題）	国家試験過去問について復習する。	30

科目名	生活支援技術B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ☑ ①食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。☑ ②排泄に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法について身につける。☑ ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ <授業担当>☑ 第1回～第16回 ：藤田担当☑ 実務経験：医療機関に勤務した経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 ☑ 第17回～第30回 ：茂木担当 実務経験：看護職としての実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。 実務経歴：福島県立医科大学付属病院において、看護師として看護業務に従事。 ☑ 課題に対するフィードバック☑ 演習を通して適宜解説する。また、実技試験を実施し、フィードバックする。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2208☑		
達成目標	【到達目標】☑ ①「食事」や「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が理解できる。☑ ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得。☑ ☑ 単位認定の最低基準：個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助方法が7割理解できる。☑ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	試験(筆記・実技) 90%、レポート10%
教科書	介護福祉士養成講座テキスト☑ 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」☑ プリント配布		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☑ 授業を欠席しないこと		
オフィスタイム	藤田：月・水曜日 14時30分～16時 家政学館4階 被服学研究室☑ 茂木：授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・排泄の意義と目的 藤田	①授業内容に関する説明。☑ ②排泄の意義・目的☑ ③排泄のメカニズム☑	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	排泄の意義と目的 藤田	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	60
5	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。④陰部洗浄について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。④陰部洗浄について	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
9	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
11	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。 実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
14	自立に向けた排泄の介護 藤田	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。 実技テスト	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。実技については自分で時間を確保して練習する。	30
15	自立に向けた排泄の介護 藤田	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
16	自立に向けた排泄の介護 藤田	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	60
17	ガイダンス・食事に関する介護 の役割 茂木	1. 授業概要の説明 2. 食事の意義と介護者の役割	今回の内容について復習する。	30
18	食事に関する介護の役割 茂木	1. 食事の意義と介護者の役割 2. 消化・吸収のメカニズム	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
19	自立に向けたの介護 茂木	食事のアセスメント：ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。	今回の内容について復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
20	自立に向けた食事の介護 茂木	1. 高齢者の特性 2. 加齢による心身機能の低下が食事に及ぼす影響（感覚機能の低下、姿勢保持の変化、嚥下機能の低下、等）	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
21	ガイダンス・食事に関する介護 の役割 茂木	食事摂取の基本的な知識： 1 (1) 食行為のメカニズム (2) 口腔ケア、口腔体操、唾液腺マッサージの意義及び目的について学ぶ。☑	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
22	自立に向けた食事の介護 茂木	誤嚥の予防と対応： (1) 誤嚥しやすい食物、誤嚥しにくい食物（サンプルを用いて説明） (2) 誤嚥の徴候と対応、誤嚥の予防	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
23	自立に向けた食事の介護 茂木	安全な食事介助の技法： (1) 座位やベッド上での姿勢のとり方 (2) 視覚障害のある人の食事介助の留意点	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
24	自立に向けた食事の介護 茂木	1. 食事に関する福祉用具の説明と紹介 2. 片麻痺のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
25	自立に向けた食事の介護 茂木	1. 視覚障害のある人の食事介助の実際 2. ベッド上での食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
26	自立に向けた食事の介護 茂木	1. 認知症のある人の食事介助の実際	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
27	自立に向けた食事の介護 茂木	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
28	自立に向けた食事の介護 茂木	食事介助の実技試験と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	自立に向けた食事の介護 茂木	国家試験対策としての課題学習と解説	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
30	食事の介助における他職種との 連携 茂木	1. 食事介助における他職種連携の必要性 2. 他職種の役割と介護職との連携	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

科目名	介護過程Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ ①介護過程とは何か、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する☑ ②介護過程の理解☑ 介護過程の展開（アセスメント・介護計画・介護計画の実施・評価）を学ぶ。 [事業全体の内容の概要]☑ 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。 ☑ ☑ 実務経験：医療現場での勤務経験をいかし介護過程の展開の必要性を指導する。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 ☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 ・事例についてのアセスメントを実施後、内容を解説していく。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2111		
達成目標	<授業終了時の到達目標>☑ ①介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解する。☑ ②介護過程の理解☑ 介護過程の展開（アセスメント・介護計画・実施・評価）のプロセスと留意点を理解する。☑ ☑ 単位認定の最低基準：介護過程とは、生活支援の考え方と介護過程の必要性を7割理解する。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☑ ☑ [履修カルテの評価項目]☑ 介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できたか☑		
受講資格	社会福祉専攻の学生	成績評価 方法	筆記試験80％、課題20％
教科書	新・介護福祉士養成講座 9『介護過程』 ☑ 中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	実習を行う上でも重要な科目なので、介護過程の展開の基本的視点を確実に修得する。グループワークや講義に主体的に臨むこと。		
オフィスタイム	水・木曜日 III・IV時限☑ 家政学館 4階 被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	自己紹介・ガイダンス	・自己紹介・授業内容の説明☑	シラバスの内容を確認する。	30
2	介護過程の意義と基礎的理解	・介護過程のとは ・介護過程の全体像	今回の内容について見直しを行う。次回の内容についてはテキストで確認する。	30
3	生活支援における介護過程の必要性	・生活支援における介護過程の意義☑ ・演習（考える介護のイメージ）	今回の内容について復習する。 演習を仕上げる。	60
4	生活支援における介護過程の必要性	・演習（考える介護のイメージ） ・介護過程と事例検討	今回の内容について復習する。	30
5	介護過程の展開	・介護過程の目的と構成☑ ・介護過程の全体像を再認識し展開において諸科目の知識の統合や関連性を理解する。	今回の内容について復習する。	30
6	介護過程の理解	・アセスメント（情報収集）コミュニケーション技術	今回の内容について復習する。	30
7	介護過程の理解	・アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	今回の内容について復習する。	30
8	介護過程の理解	・アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） ・課題の明確化	今回の内容について復習する。	30
9	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。	30
10	介護過程の理解	演習・アセスメントの実際（事例から）	今回の内容について復習する。	30
11	介護過程の理解	演習・相手の望む旅行計画の作成	旅行計画を作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	介護過程の理解	・相手の望む旅行計画の発表 ・介護計画の立案と留意点	今回の内容について復習する。	30
13	介護過程の理解	・介護の実施☑ ・実施の際の留意点	今回の内容について復習する。	30
14	介護過程の理解	・評価☑ ・評価における留意点 ・評価を踏まえた介護計画の修正	今回の内容について復習する。	30
15	総括・まとめ	介護過程の展開について総復習を行う	今回の内容について復習する。	60

科目名	介護過程Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	介護過程の展開方法の理解をもとに、実習の体験を踏まえ個別の生活支援のあり方を考え、事例を基に個別援助計画を作成し、学生相互の発表を通して個別援助計画作成の基本を理解する。☒ ☒ポート等は最後の授業でフィードバックを行います。☒ 特別養護老人ホームでの勤務経験を活かし、事例などを組み入れながら実践に役立つ授業を行います。☒ 実務経験：社会福祉法人笑風会 事業部長☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2212		
達成目標	目標は介護過程実習Ⅰ－Ⅱで介護過程の各様式に情報を整理して記載できるようにする。さらにアセスメント力を身に付ける。☒ 単位認定の基準は：「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	演習30％、課題70％
教科書	最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	・介護実習Ⅰ－Ⅱに向けて、介護過程の展開方法を確実に実践できるように理解してください。☒ ・グループワークや発表を中心に行うため、積極的に参加してください。		
オフィスタイム	近内：水曜日Ⅰ・Ⅱ時限・時限 創学館4F No.6 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護過程の基本確認	介護過程Ⅰの振り返りと介護過程Ⅱの進め方などについて理解する☑ ・2回目以降演習やグループワークなどを適宜取り入れ、双方向型の授業を行う	・介護過程Ⅰを振り返るとともに、介護過程Ⅱで行う授業概要を理解する	15
2	介護過程の実践的展開1	ⅠCFモデルについて理解する ・ⅠCFモデルとは何かを理解する ・事例により、考え方を理解する	・ⅠCFとは何かを予習する ・授業のポイントをまとめる	30
3	介護過程の実践的展開2	事例によりⅠCFモデルの活用方法を理解する ・ⅠCFのアセスメント項目を理解し、事例から記載の仕方を学ぶ	・テキストで予習する☑ ・授業で事例を通して学んだことを整理する	30
4	介護過程の実践的展開3	事例によりⅠCFモデルを活用した情報の整理を行う ・アセスメント表への記載の仕方を理解し、記載する	・ⅠCFのアセスメントの整理の方法を予習する ・授業で行った事例をまとめ振り返る	30
5	介護過程の実践的展開4	事例によりⅠCFモデルを活用した情報の整理を行う ・アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する☑ ・統合化の必要性、その方法をまとめる☑	30
6	介護過程の実践的展開5	「課題の統合化」を事例を通して行う ・介護計画書の書き方を理解し、課題の統合化を行う	・テキストで課題の抽出について予習する ・授業で行った内容を自分の考えとしてまとめる	30
7	介護過程とケアマネジメント1	介護過程とケアマネジメントの関係性を理解する☑ ・ケアマネジメントとは何かを理解する☑ ・ケアプランとは何かを理解する☑ ・ケアプランと個別援助計画の関係性を理解する	・ケアマネジメントとは何かの予習をする☑ ・課題を行う	90
8	介護過程とケアマネジメント2	チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する ・チームアプローチにおける利用者支援の実際を理解する	・テキストで予習する☑ ・授業を振り返りまとめる	30
9	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表の項目意義について振り返る 個別援助計画書・実施評価表・意義を振り返る	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる	30
10	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・アセスメント表1・2を仕上げる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表へ記載する	・テキストで予習する ・授業のポイントをまとめる	30
12	介護過程の展開	課題の抽出を行い、必要な支援を組み立てる	・授業のポイントや留意点を振り返る	30
13	介護過程の展開	個別援助計画書を作成する	・授業のポイントや留意点を振り返る	45
14	介護過程の展開	個別援助計画書を作成する	・個別援助企画書を完成させる	45
15	介護過程の展開	作成した個別援助計画書について意見を発表する	・授業のポイントや留意点を振り返りまとめる	45

科目名	介護総合演習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択	
担当教員	廣野 正子,藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	介護総合演習では、介護実習Ⅰ-1で必要になる生活支援技術や介護の基本など各領域で学ぶ知識と技術の統合により、介護実習での学びを深化させ、介護の専門職としての態度を形成する。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 位置づけ・水準 DW2119 ☑			
達成目標	介護実習Ⅰ－1の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う。 ①個々の学生の持つ関心や疑問・不安などに焦点をあて、自信を持って実習に臨めるようになる。☑ ②介護実習の事前に実習施設についての理解を深める。 ③コミュニケーションについて各領域で学んだ知識と技術を統合し実践できるようになる。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ☑			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	レポート50％課題 演習50％☑	
教科書	なし			
参考書	光成館『介護福祉総合演習』			
学生への要望	・自信を持って実習に臨めるように、場面に応じたスキルを確実に身につけること。			
オフィスタイム	廣野：創学館No.1 研究室 水曜日 Ⅰ・Ⅱ限 藤田：家政学館4 階 被服学研究室 月・水曜日 Ⅳ限			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	実習の意義と目的 廣野	①介護実習の意義と目的を理解する。☑ ②介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する。☑ ③介護実習では、個別ケアの視点をもつことを理解する。☑ ④「実習前→実習中→実習後」という介護実習の流れと、それぞれの時期における学習のポイントを理解する。	介護実習の意義を理解し、介護実習の目標について考えまとめる。	30
2	多様なニーズと介護サービス 藤田	①実習施設や事業の概要について理解する。☑ ②実習Ⅰ-1の目的を理解する。	施設の理解（事前資料）を熟読して、理解でない用語について質問できるようにまとめる。	30
3	施設の理解 藤田	①特別養護老人ホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。☑ ②介護老人保健施設のサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ③通所介護、グループホームのサービス内容・利用者像・援助の視点などを理解する。 ④実習Ⅰ-1で学ぶべきポイントを理解する。	本日の授業内容から、学生自身の興味のある施設種別を選択し、またその理由も明確にする。	30
4	介護のコミュニケーション1 廣野	①介護コミュニケーションの意義 演習：あなたのコミュニケーションスタイルは？ その後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの意義を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30
5	介護のコミュニケーション2 廣野	①介護職に求められる効果的なコミュニケーション ②高齢者への声掛けと傾聴 演習：SOLERの体験後、グループディスカッションを行う。	コミュニケーションの傾聴を意識して友人、家族間などで会話をしてみる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	介護のコミュニケーション3 廣野	①自己開示と対人関係 ②共感と高齢者による感情表現 ③演習：共感の体験後、グループディスカッションを行う。	自己開示と共感について友人、家族間などで意識して会話をしてみる。	30
7	介護実習記録 藤田	①記録の意義と目的☑ ②観察記録の方法 ③実習記録の基礎知識 ④介護実習日誌（冊子）	実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
8	介護実習記録の方法 藤田	①実習関連の記録の書き方☑ ②実習記録を書く時の注意点	指摘された点に留意して再度、実習記録を1日分、授業を通しての理解として記載する。	30
9	介護福祉士の職業倫理 藤田	①介護福祉士としての専門職に求められる福祉の理念と職業倫理について理解する。 ②実習に関わるコミュニケーションの方法☑ ③実習生としてのマナー、接遇	授業の中で指示されたことについて、まとめる。	30
10	実習生個人票 廣野	①実習生個人票についての説明と作成 ②「誓約書」	実習生個人調書の下書きをしてくる。	30
11	実習計画書の作成1 廣野	①実習計画書についての説明と作成	実習計画書を作成してくる。	30
12	実習計画書の作成2 廣野	①実習計画書について発表	実習施設について調べてくる。	30
13	実習前オリエンテーション1 藤田	①実習施設の確認☑ ②実習についての心構え、注意点の確認☑ ③実習施設への礼状の書き方	実習施設について調べてくる。	30
14	実習前オリエンテーション2 藤田	①先輩による体験談☑ ②質疑応答	本日の体験談から学んだこと、疑問に感じたことなどまとめる。	30
15	実習前オリエンテーション3 藤田	①実習事前訪問の留意点と確認事項（健康管理含む） ②実習Ⅰ－1の評価内容 ③個人情報の取り扱い 授業全体の総括	事前訪問の準備について書き出し、同施設になる学生間で連携すること。	30

科目名	介護総合演習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	介護実習Ⅰ－Ⅱの教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い演習を通して専門職としての態度を養う。また、☒課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 【担当教員】☒ 廣野担当：1回～4回、11～15回☒ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田担当：4回～10回 ☒ 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 位置づけ・水準 DW2120		
達成目標	介護実習Ⅰ-2の教育効果を上げるため、介護実践に必要な知識や技術の統合を行い、専門職としての態度を養う☒ ①介護実習Ⅰ－Ⅰを振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて自己の課題を明確にする。☒ ②実習施設の役割と機能を理解し、対象者とその家族の生活ニーズを考える。☒ ③対象者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。☒ 単位認定の最低基準：対象者・家族のニーズに対する自立支援の必要性について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：理論的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験70％、課題30％
教科書	随時プリントを配布する		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	実習の実践に必要な知識や、実習生としてのマナーを修得してほしい。		
オフィスタイト	廣野：水曜日Ⅰ限・木曜日Ⅲ限（創学館4階 No.1）☒ 藤田：月・水曜日Ⅳ限（家政学館4階 被服学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ－Ⅰ振り返り（1） 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価☑ ☑	介護実習Ⅰ－Ⅰを振り返り、報告できるようにまとめる。	30
2	介護実習Ⅰ－Ⅰ振り返り（2） 廣野	・介護実習報告会（4施設） ☑	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
3	介護実習Ⅰ－Ⅰ振り返り（3） 廣野	・介護実習報告会（3施設） ・介護実習Ⅰ－Ⅱが始まるまでの流れと事前学習の内容を理解する。☑ ☑	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
4	介護実習Ⅰ－Ⅰ振り返り（4） 廣野・藤田	・☑護実習評価（施設）	施設評価と自己評価の相違を確認する。	30
5	介護実習Ⅰ-2の展開（1） 藤田	・実習Ⅰ-2のねらい ・実習Ⅰ-2の介護事業所の理解	介護実習Ⅰ-1での実習記録から良く書けている記録、そうでない記録をチェックする。	60
6	介護実習Ⅰ-2の展開（2） 藤田	・実習記録や日誌のまとめ方を学ぶ。☑ ☑ ☑	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
7	介護実習Ⅰ-2の展開（3） 藤田	・介護実習Ⅰ－Ⅱ日誌 ☑プロセスレコードの説明	日常生活の一場面から、プロセスレコードを記録する。	30
8	介護実習Ⅰ-2の展開（4） 藤田	・プロセスレコードの実際と活用法☑ ☑ ☑	食事、整容、入浴での介護技術について実践できるように予習する。	60
9	演習（1） 藤田	・食事場面における介護技術の展開☑ ・整容場面における介護技術の展開☑ ・入浴場面における介護技術の展開	排泄、認知症の方への対応などについて配慮することをまとめる。	30
10	演習（2） 藤田	・排泄場面における介護技術の展開☑ ・認知症の方への介護技術の展開	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
11	介護実習Ⅰ-2の展開（5） 廣野	・介護実習Ⅰ-2の実習施設について調べたことを、発表する。	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	介護実習Ⅰ-Ⅱの展開（6） 廣野	・介護実習Ⅰ－Ⅰからの課題を明らかにし、実習目標を作成する。	実習目標を完成する。	30
13	事前訪問準備 廣野	・事前訪問について必要事項をまとめる。 ・介護過程の展開、誓約書、個人調書について	事前訪問で確認することをまとめる	60
14	実習前オリエンテーション 廣野	・実習先の概況、事前訪問の準備。	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
15	介護総合演習Ⅱの総括 廣野	・授業の補足と総括	介護実習Ⅰ-Ⅱの準備をする。	30

科目名	介護実習Ⅰ－1	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	廣野 正子,藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	介護を必要とする対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。さらに、介護を必要とする個人を理解するため、対象者や家族とのコミュニケーションを実践し、対象者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ。☑ 介護実習Ⅰ－1は通所施設での実習となる。☑ 実習時間の構成は、1日8時間で10日間、計80時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。☑ 廣野☑ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ 藤田☑ 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☑ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準 DW2123☑ ☑ ☑			
達成目標	介護を必要とする人の理解と、コミュニケーションの意義を理解できる。 ①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて対象者との関わりを深める。 ☑ ②介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 ☑ ③対象者、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況に合わせたコミュニケーションについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%	
教科書	なし			
参考書	実習施設から提示される資料			
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい			
オフィスタイム	廣野：創学館4階 No.1研究室 ・水曜日Ⅰ時限・木曜日Ⅰ時限☑ 藤田：家政学館 被服学研究室 月曜日・木曜日Ⅳ時限			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護事業所実習	オリエンテーション☑☑	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
2	学外介護事業所実習	オリエンテーション☑	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	90
3	学外介護事業所実習	オリエンテーション☑	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護事業所実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護事業所実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護事業所実習	生活支援技術の確認③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護事業所実習	生活支援技術の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護事業所実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護事業所実習	多職種協働の実践①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護事業所実習	多職種協働の実践②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護事業所実習	多職種協働の実践③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護事業所実習	多職種協働の実践④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り①	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
29	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り②	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
30	学外介護事業所実習	実習反省会および振り返り③	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

科目名	介護実習Ⅰ－Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。☒ 介護実習Ⅰ－Ⅱはグループホームなどの福祉施設での実習となる☒ 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる。 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院に勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。 位置づけ・水準 DW2124 ☒ ☒		
達成目標	様々な場面で展開される介護を実践し、介護福祉士の役割を理解することができる。 ①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。☒ ②介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。☒ ③介護を必要とする対象者の理解のためアセスメント能力を身につける。☒ 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況を適切にアセスメントすることについて8割理解し実践することができる。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	実習施設の評価80％、巡回時の面談・日誌の記録20％
教科書	新・介護福祉士養成講座☒ 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料☒		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい☒ ☒		
オフィスタイム	廣野：創学館4階 No.1研修室 水曜日Ⅱ時限・木曜日 Ⅱ時限☒ 藤田：家政学館4階 被服学研究室 月・水曜日 IV時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	生活支援技術の実践①☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑤☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑥☒ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、介護援専門員、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 医師、看護師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ③☒ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
14	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	多職種との連携を学ぶ☒ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の考察	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
25	学外介護施設実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
26	学外介護施設実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
27	学外介護施設実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
28	学外介護施設実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
29	学外介護施設実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
30	学外介護施設実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
31	学外介護施設実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
35	学外介護施設実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
36	学外介護施設実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表1関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	学外介護施設実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
38	学外介護施設実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表 1 関係の情報収集	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
39	学外介護施設実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表 1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
40	学外介護施設実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表 1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
41	学外介護施設実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表 1 関係の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
42	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ☒	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
51	学外介護施設実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
52	学外介護施設実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
53	学外介護施設実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表 2 の情報整理	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
54	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
55	学外介護施設実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	120
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
59	学外介護施設実習	生活支援技術の実践☒ 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	60

科目名	認知症の理解A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人を取り巻く状況について理解する。☑ ②認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する☑ ③認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 認知症を取り巻く社会的な問題について理解する。また、認知症を引き起こす代表的な疾患を理解する。認知症の症状と生活面への影響を理解し、適切な支援のあり方を考察できる知識と技術を学ぶ。☑ ☑ 実務経験：医療現場における臨床経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☑ ☑ 課題へのフィードバック☑ ・確認テストを随時実施しフィードバックを行う。☑ ・最終授業で全体に対するフードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2224			
達成目標	授業終了時の到達目標☑ ①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する☑ ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する☑ ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する☑ ☑ 単位認定の最低基準：①認知症の原因疾患と生活上の影響を7割理解する☑ ②認知症が引き起こす症状とその背景について7割理解する。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☑ ☑ 〔履修カルテの評価項目〕☑ ①認知症の原因疾患をどの程度理解できたか☑ ②認知症が引き起こす症状（中核症状とBPSD）をどの程度理解できたか☑ ③認知症の人に対する適切な支援のあり方をどの程度理解できたか			
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	期末試験70%、小テスト10%☑ レポート20%	
教科書	中央法規出版「認知症の理解」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で取り組んでほしい。☑ 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 家政学館4階被服学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明☑ ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）	シラバスを把握する。ビデオの感想を書き次回提出する。	30
2	認知症の基礎的理解	認知症とは☑か ・定義と診断基準	今回の内容について見直しを行う。	30
3	認知症の基礎的理解	脳のしくみ	今回の内容について見直しを行う。	30
4	認知症の基礎的理解	認知症の人の心理	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
5	認知症の症状・診断・治療・予防	・中核症状の理解 ・生活障害の理解 ☑	今回の内容について見直しを行う。BPSDについて各自学習する。	60
6	認知症の症状・診断・治療・予防	・BPSDの理解 BPSDについて各自でまとめたものを発表する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
7	認知症の症状・診断・治療・予防	・認知症の原因疾患と症状・生活障害 ☑	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	認知症の症状・診断・治療・予防	・認知症の診断と重症度 ・認知症の治療薬 ・認知症の予防 ☒	今回の内容について見直しを行い、確認テストに向けて学習する。次回の授業内容について教科書で確認する。	60
9	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解についての確認テスト☒ ☒	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	障害をかかえて生きることへの支援	認知症の方の在宅での生活（DVD使用） 映像を通して認知症についての学習を考察する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	障害をかかえて生きることへの支援	①認知症を取り巻く状況 ②認知症ケアの理念と視点について☒	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	障害をかかえて生きることへの支援	③認知症当事者の視点から見えてくるもの（DVD使用） 当事者の視点とはどのようなものか考察する	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	認知症ケアの実際	パーソンセンターとケア	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	認知症ケアの実際	若年性認知症について	今回の内容について見直しを行う。次回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	定期テストに向け学習する。	60

科目名	認知症の理解B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解する☑ ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる☑ ③認知症を取り巻く社会資源について学ぶ☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 認知機能障害が及ぼす日常生活への影響や、認知症の人・家族の心の変化や生活面への影響を理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける☑ 実務経験：医療機関で勤務した臨床経験を活かし、授業を行う☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ ・確認テストを随時実施しフィードバックする。☑ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2325			
達成目標	〔授業修了時の到達目標〕☑ ①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が理解できる☑ ②認知症のその人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる☑ ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ ☑ 単位認定の最低基準：①認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響が7割理解できる。☑ ②本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践について7割理解できる。☑ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☑ ☑			
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20% ☑	
教科書	中央法規出版「認知症の理解」☑ プリント配布			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☑ 授業を欠席しないこと☑			
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時☑ 家政学館4階 被服学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	認知症ケアの実際	①ガイダンス・授業内容の説明☑ ②前期の内容を振り返る☑ ☑	シラバスを確認する。今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☑ ①センター方式	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☑②ひもときシート	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
4	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール☑③健康状態のアセスメント	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	認知症ケアの実際	認知症の人とのコミュニケーション	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア ・内容をグループでまとめる ☑	内容についてまとめ、発表の準備をする。	60
7	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア ・まとめたものをパワーポイントで発表する ☑	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・映像を通して認知症の人のアプローチについて考察する	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュード	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
10	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・ユマニチュードの実際 ・バリデーション	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
11	認知症ケアの実際	認知症に人へのさまざまなアプローチ ・認知症ケア・マッピング ・回想法・聞き書き	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	認知症ケアの実際	認知症の人の終末期医療と介護 環境づくり	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	介護者支援	制度、サービス、機関、地域づくり 多職種連携と協働	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	認知症の人の地域生活支援	家族への支援 介護福祉職への支援	今回の内容を復習し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認	今回の内容を復習し、定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	こころとからだのしくみA	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する☑ ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する☑ ③「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 生活支援（移動・身じたく・食事）に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。☑ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ ・各単元ごとに確認テストを実施し、解説することでフィードバックする。☑ ・最終授業で全体的なフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2132☑ ☑			
達成目標	〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ ①人体の構造と働きを理解する☑ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する☑ ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ ☑ 単位認定の最低基準：①人体の構造と働きを7割理解する☑ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化や疾患による影響について7割理解する☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☑ ☑ 〔履修カルテの評価項目〕☑ ①人体の構造と働きを理解できたか☑ ②「移動」「身じたく」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか☑ ③「移動」「身じたく」「食事」について、観察力と判断力を身につけ、安全に介助できるための根拠を理解する☑			
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	期末試験80％、小テスト20％☑ ☑	
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」☑			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☑ 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時☑ 家政学館4階 被服学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明☑ ②健康の定義☑	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	こころのしくみの理解	①人間の欲求とは ②自己実現と尊厳	今回の内容を復習する。	30
3	こころのしくみの理解	こころのしくみ ①こころとは何か☑ ②脳のしくみ☑ ・学習・記憶・思考のしくみ☑ ・認知・適応のしくみ☑	今回の内容を復習する。	30
4	からだのしくみの理解	からだのしくみ☑ からだの部位の役割 ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
5	からだのしくみの理解	からだのしくみ☑ からだの部位の役割 ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	からだのしくみの理解	からだのしくみ☑ からだの部位の役割 ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
7	からだのしくみの理解	からだのしくみ☑ からだの部位の役割 ☑	今回までの内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
8	移動に関連したところとからだのしくみ	前回までの確認テスト 移動のしくみ☑ ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 変化の気づきと対応	移動に関しての内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また次回の項目を教科書で確認する。	60
10	身じたくに関連したところとからだのしくみ	移動に関連したところとからだの確認テスト☑ ☑ 身じたくのしくみ☑ ①身じたくにを整えることの意義・目的☑ ②身じたくに関連したところとからだのしくみ☑ ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	身じたくに関連したところとからだのしくみ	身じたくに関連したところとからだのしくみ☑ ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
12	身じたくに関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 変化の気づきと対応 演習：機能低下や障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
13	食事に関連したところとからだのしくみ	身じたくに関連したところとからだのしくみの確認テスト☑ 食事に関連したところのしくみ☑ ①食事に関連したところのしくみ ②食事に関連したからだのしくみ ☑ ☑	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	食事に関連したところとからだのしくみ	☑身の機能低下が食事に及ぼす影響 変化の気づきと対応	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
15	総括	食事に関連したところとからだのしくみの確認テスト☑ ☑ これまでの授業内容の補足及び確認	今回の復習を行い、定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	こころとからだのしくみB	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する☑ ②生活支援における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する☑ ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する☑ ④人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響を学び生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する☑ ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ☑ 〔履修カルテの評価項目〕☑ ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解できたか☑ ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか☑ ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解できたか☑ ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解できたか☑ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ ・各項目毎に確認テストを実施しフィードバックする。☑ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2133		
達成目標	〔授業修了時に到達目標〕☑ ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解する☑ ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する☑ ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、人生の最終段階について、安全に介助できるための根拠を理解する☑ ④人生の最終段階のケアにおける介護職の役割について理解する☑ ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ ☑ 単位認定の最低基準：①「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」「人生の最終段階」について、老化や疾患による影響について7割理解する ☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力		
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20%
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと☑ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時☑ 家政学館4階 被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	①ガイダンス・授業内容の説明 ☑ ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか ☑ ③清潔がもたらす効果 ☑	シラバスを確認する。今回の内容を復習する。	30
2	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみ ☑ ①皮膚の構造としくみ ☑ ②発汗のしくみ ☑ ③皮膚の汚れのしくみ ☑ ④陰部の清潔	今回の内容を復習する。	30
3	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	精神機能や心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ☑ 入浴・清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応	今回の内容を復習する。	30
4	入浴・清潔保持に関連したところ とからだのしくみ	入浴・清潔保持における観察のポイント ☑ ②心身の状態に応じた入浴・清潔の方法 ☑ ③入浴・清潔保持における医療職との連携 ☑	入浴・清潔保持に関した内容を復習し、確認テストに向けた学習を行う。また、次の項目を教科書で確認する。	60
5	排泄に関連したところとからだ のしくみ	入浴・清潔保持に関する演習問題 ☑ 入浴・清潔保持に関する確認テストおよび要点を復習 ☑ 排泄のしくみ	今回の内容を復習し、次の項目を教科書で確認する。	30
6	排泄に関連したところとからだ のしくみ	排泄に関連したからだのしくみ	今回の内容を復習し、次の項目を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄に関連した「からだ」のしくみ☑️人工肛門 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
8	排泄に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、☑️ ①老化による機能低下☑️ ②疾患による機能低下☑️ ③障害による機能低下☑️ 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
9	排泄に関連したところとからだのしくみ	①変化の気づきと対応 ☑️ ②排泄における医療職との連携☑️ 演習課題	排泄の内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。次回の項目を教科書で確認する。	60
10	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	排泄に関するところとからだのしくみの確認テストと要点の復習☑️ 睡眠に関連したところとからだのしくみ ①休息・睡眠のしくみ	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
11	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	①睡眠に影響を及ぼす心身の機能低下☑️ ②睡眠障害☑️ ③変化の気づきと医療職との連携☑️ ①睡眠での観察ポイントと連携のポイント☑️ 演習課題	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	60
12	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	休息・睡眠に関するところとからだのしくみの確認テストと要点の復習 人生の最終段階に関する「死」のとりえ方 終末期	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
13	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	「死」に対するこころの理解 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 ☑️	今回の内容を復習し、次回の項目を教科書で確認する。	30
14	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	医療職との連携のポイントについて学ぶ☑️ 演習課題☑️	休息・睡眠と人生の最終段階に関連した内容を復習し確認テストに向けた学習を行う。	60
15	総括	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみについての確認テストと復讐☑️ ☑️ これまでの授業内容の補足及び確認	これまでの内容を確認し、定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	田辺 真弓		
開講期	後期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、人間と被服、それを取り巻く環境との関連性を幅広く学ぶ。近年、衣生活は大きく様変わりしており、繊維産業の技術革新による高付加価値製品の開発が行われる一方、海外への工場移転、輸入繊維製品の増加とアパレル市場の価格競争の激化、衣服廃棄量の増大と地球環境への影響等が大きな問題となっている。☒ 衣生活を営む上で必要とされる衣服の的確な選択と購入、快適な着方、清潔な管理などの基本的知識を得るとともに、衣生活に関わる諸問題に対処できる能力を養い、消費者としての視点から持続可能な社会への取り組みへの理解を深める。☒ また、家庭科教育における衣生活の課題を把握し、指導者としての視点を養うとともに、衣生活分野における教科指導に役立てることができるよう、衣生活全般における基礎知識を修得する。さらに、介護を必要とする人に対しての衣生活の援助に役立つ知識を習得する。		
達成目標	①衣生活の専門知識を修得し、それらを活用できる。☒ ②現代の衣生活をめぐる諸課題を発見分析し、解決する能力を身につけている。☒ ③自己の専門知識を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。☒ ④地域社会における衣生活に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。☒ 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。		
受講資格	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末筆記試験により確認と評価を行う。☒ ①課題レポート 2回 20点☒ ②期末筆記試験 80点☒ 60点以上で合格点とする。
教科書	『消費者の視点からの衣生活概論』 菅井清美・諸岡晴美編著 株式会社井上書院 2013年 ISBN978-4-7530-2323-3 C3077		
参考書	授業で紹介する。		
学生への要望	自分および家族の衣生活実態と問題点を考えながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。衣生活全般に関心をもつとともに、新聞雑誌等の衣生活関連記事に目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
オフィスタイム	教務部非常勤講師控室 月曜日（IV時限）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス☒ 日本風俗美術館見学・服飾解説	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。日本風俗美術館を見学し、展示されている風俗人形の服飾、その時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。	日本風俗美術館見学の感想をまとめる。	60
2	衣服の始まりと変遷	着衣の始まり、着衣に対する意識の変化、流行のプロセス、流行の心理について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
3	身のまわりの衣服と衣服材料	身のまわりの繊維製品と衣服の分類、織物・編物・糸、天然繊維・化学繊維などの衣服材料について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
4	衣服の選択一色彩とファッション	衣服を構成する色彩とデザイン、ファッション商品に求められる性能について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
5	体型に合わせた衣服の購入	体型と衣服、衣服のサイズ表示、適切なサイズの選択について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
6	衣服を快適に着用するために	寒暑から身を守る着方、動きやすい衣服と衣服圧などの被服衛生について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
7	衣服の清潔な管理（1）	衣服の汚れと洗たく、衣料取り扱い絵表示などの衣服管理について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
8	衣服の清潔な管理（2）	家庭洗たくと商業洗たく、洗たく以外の手入れなどの衣服管理について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
9	環境に配慮した衣生活（1）	衣服の廃棄とリサイクルについて学び、持続可能な社会について考える。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
10	環境に配慮した衣生活（2）	洗たくに由来する環境問題、ドライクリーニング剤による環境汚染問題について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
11	進化する衣服性能と技術（1）	繊維を作る技術の進歩や加工剤の開発によって登場した高性能衣服素材について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
12	進化する衣服性能と技術（2）	高度な機能性を追求した衣服アイテムの例として、スポーツウェアの変遷からみる技術開発について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
13	乳幼児・高齢者・障がいのある人の衣服	年齢や身体機能に合わせた衣服、ユニバーサルデザイン服について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
14	省エネ・災害への対応を考えた衣服	節電対策の衣服（クールビズ・ウォームビズ）、身体防護のための衣服について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	授業のまとめと期末筆記試験	授業のまとめを行い、望ましい衣生活のあり方を考える。 期末筆記試験を実施する。	本日の講義内容についてまとめる。	60

科目名	食生活概論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修
担当教員	鉢野 信子		
開講期	前期		
授業概要	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。 【位置づけ・水準】 DS2143		
達成目標	「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】を達成することを目標とする。☒ ☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。☒ ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。☒ ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。 【単位認定方法の最低基準】 授業内容の80％を理解していること。 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】①知識・理解 ②倫理観・社会的責任		
受講資格	家政学部 生活科学科 1 年	成績評価 方法	①ノートまとめ20％☒ ②課題30％☒ ③期末試験50％
教科書	①指定の資料を各自コピーして持参する。☒ ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。		
参考書	必要に応じて、授業内で案内する。		
学生への要望	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。☒ 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。☒ 3. ノートをしっかりとって下さい。☒ 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。☒ 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。		
オフィスタイム	月曜日3時限および火曜日3時限目のNo.1食品学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。	復習：1回目の授業内容についてノート整理をしてください。	30
2	食品表示と法的位置づけ	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して掌握していることを理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：2回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題①に取り組んでください。	60
3	品質等選択に役立つ表示	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：3回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題②に取り組んでください。	60
4	安全や衛生に関する表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：4回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題③に取り組んでください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	健康や栄養に関する表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：5回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題④に取り組んでください。	60
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：6回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑤に取り組んでください。	60
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：7回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑥に取り組んでください。	60
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：8回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑦に取り組んでください。	60
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：9回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑧に取り組んでください。	60
10	日本人の食事摂取基準（2020）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2020年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2020）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：10回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑨に取り組んでください。	60
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイレージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：11回目の授業内容についてノート整理をしてください。☒ 課題：課題⑩に取り組んでください。	60
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：12回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートについて、理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。☒ 復習：13回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：14回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。	予習：mocaに指示した資料を印刷し、そのことについて事前学習をしてください。 復習：15回目の授業内容についてノート整理をしてください。	60

科目名	住生活概論	対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	前期			
授業概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。位置付け・水準 HL2137			
達成目標	広い視野で物事を捉え、住生活に関わる基礎的知識を総合的に理解する。さらに社会及び家庭生活における諸問題について考察し、学んだ知識や技術を活用して問題解決を図ることができる。単位認定の最低基準は以下の①～④について7割達成していること。☒ ①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。☒ ②家族と間取りとの関連について考察する。☒ ③UD住宅の在り方について理解する。☒ ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。☒ ディプロマポリシーとの関係：「知識・理解」「論理的思考力・問題解決力」「倫理観社会的責任」			
受講資格	生活科学科	成績評価 方法	①定期試験 7 0 %☒ ②提出図面 3 0 %	
教科書	初めて学ぶ住居学＜建築のテキスト＞編集委員会 学芸出版社			
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会☒ 「ダイニングキッチンはどうして誕生した」技報堂出版			
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。			
オフィスタイム	生活科学研究室☒ 月曜日Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：50～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活を取りまく問題について考える。	新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。	60
2	住生活と諸問題	多様化する住生活について理解し、様々な住生活の諸問題について考える。	住生活の諸問題を取りあげ、自分の考えをまとめておく。	60
3	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。	日本の気候風土、地域性についてまとめる。	60
4	家族と住まいの変遷	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
5	高齢者と住環境	高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
6	間取りの重要性 1	本来最も安心して過ごすべき住まいが子供の犯罪行為の場となった事例から、住まいにおける子供空間の位置付けについて考察する。	子どもの自立と子ども部屋の関係について調べる。	60
7	間取りの重要性 2	間取り（空間構成）と家族問題とを関連付けながら、心（ソフト）と住まい（ハード）との関係が皆無ではないこと、さらには両面から人間を守護しなければならないことを確認する。	家族の問題と間取りの重要性について考えをまとめる。	60
8	住宅と衛生	換気と結露（表面結露・内部結露）との関連について理解し、結露を発生させない住まい方を考える。	住まいの衛生について考え、住まい方を考察する。	60
9	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。☑	設計製図における線の引き方を練習する。	60
10	線の引き方、製図文字の練習	前授業に引き続き、線の引き方と、製図文字を練習する。次にダイヤモンドリング作成について説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180
11	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、ダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	ダイヤモンドリングの作成	線の練習を目的に、引き続きダイヤモンドリングを作成する。太さや濃さに注意を払って慎重に作成した後、住宅図面トレースについて説明する。	線の練習を意識しながら、ダイヤモンドリングを作成する。	60
13	住宅図面のトレース1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。	平面図・配置図をトレースする。	180
14	住宅図面のトレース 2	前授業に引き続き、2 階平面図、立面図を完成させる。	2階平面図と立面図のトレースを完成させる。	180
15	住宅図面のトレース 3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。	製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。	180